

(様式1)

教育研究業績書

2022年5月1日

氏名

小寺 栄子

研究分野

学位

看護管理学, 看護教育学

修士 (Master of Arts) New York University

研究内容のキーワード

看護管理者のコンピテンシー、看護職のキャリア発達と開発

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
1. 教育方法の実践 1) 総合実習 2) 看護統合演習	平成23～31年 平成28年～31年	4年生の2つの科目において、地域包括ケアシステムの構築の推進の必要性から、チーム医療の実際の活動を捉え、その中での生活を支援するという看護の独自性を追究する実習と演習を実施した。
2. 作成した教科書、教材 ①明解看護学双書 基礎看護学 I (第1～2版), 第7章「看護管理」, 金芳堂. ②看護管理学 自律し協働する専門職の看護マネジメントスキル (第1～2版), 第1章, 南江堂.	平成10年、平成15年 平成25年, 30年	システム思考を中心に、看護管理のプロセス、システム把握、変化への対応、経営管理論など基礎教育過程で習得しておく必要のある看護管理の知識・理論を述べた。学部の看護管理論でテキストとして用いた。 「権限と責務の遂行」「意思決定」「組織変革」の項を担当し、看護専門職としての責任と主体的な行動、そしてケアを創造し続け組織変革を起こすことの重要性を教授している。
3. 実務の経験を有する者についての特記事項 ・高知県立大学看護学研究科修士課程の非常勤講師「看護教育論」	平成13年～現在に至る	修士課程共通科目の「看護教育論」を担当

職務上の実績に関する事項

事項	年月日	概要
1. 資格、免許等 看護師免許, 保健師免許, 養護教諭一級普通免許状 (養護), 中学校教諭一級普通免許状 (保健), 高等学校教諭二級普通免許状 (保健・看護)	昭和52年	
2. 所属学会 ・高知女子大学看護学会 ・日本看護科学学会 ・日本看護学教育学会 ・日本看護管理学会 ・日本災害看護学会	昭和52年～現在に至る 昭和63年～現在に至る 昭和63年～現在に至る 平成10年～現在に至る 平成10年～現在に至る	
3. 実務の経験を有する者についての特記事項 ・日本災害看護学会評議員 ・日本災害看護学会専任査読者 ・日本看護科学学会専任査読者 ・和歌山県立医科大学看護短期大学部将来構想委員 ・静岡県看護協会活性化計画推進委員会委員 ・日本看護系大学協議会看護管理教育検討会委員 ・静岡県個人情報保護審査会委員 ・日本看護科学和文誌編集委員 ・静岡市立病院経営形態最適化検討会委員 ・日本看護学会学会委員 (看護管理) ・日本学術振興会科学研究費委員会専門委員	平成10年～14年 平成13年～現在に至る 平成14年～令和元年 平成13年～14年 平成15年～19年 平成18年～20年 平成19年～22年 平成20年～23年 平成22年～23年 平成23年～25年 平成24年～26年	学会設立時の発起人として組織立上げに関わった。 学会誌の査読を担当 学会誌の査読を担当 短期大学の大学化に向けての答申の検討を行った。 協会の活性化のための組織体制の検討を行った。 看護系大学の修士課程の看護管理コースのカリキュラムモデルの検討を行った。 静岡県の保有する個人情報の開示可否等の決定について、行政不服審査法による不服申立てがあった場合に審査を行った。 日本看護科学学会誌の編集委員として看護管理分野を担当した。 静岡市立病院の経営改善のための最適経営形態を学識経験者として審議した。 学会分科会の再編の検討、看護管理分科会のプログラムの立案・実施・評価を担当した。 専門委員として審査活動を行った。

・日本私立看護系大学協会理事	平成29年～30年	研究担当理事として、会員の研究能力の推進と研究助成のための教育研修を計画し実施した。
・最新看護索引編集会議委員	令和2年～	最新索引集の編集委員を担当する。

(様式2)

研究業績等に関する事項				
著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) 明解看護学双書 基礎看護学 I (第2版)	共著	平成16年	金芳堂, 第七章「看護管理」P.94-123	システム思考を中心に、看護管理のプロセス、システム把握、変化への対応、経営管理論など基礎教育過程で習得しておく必要のある看護管理の知識・理論を述べた。野嶋佐由美、松本女里、池川清子、小寺栄子 他
看護管理学 自律し協働する専門職の看護マネジメントスキル (第2版)	共著	平成30年	南江堂, 第1章p48 -65 を担当	学生並びに実践看護者を対象にした看護管理テキスト。第1章の「意思決定」「組織変革」の項を担当した。手島恵、藤本幸三 編集, 住吉蝶子, 渡辺八重子, 嶋森好子, 小寺栄子 他
(学術論文) 看護の生産性を考えるための概念枠組み	単著	平成6年	東海大学短期大学紀要, 第27号, 211-216, 1994. (査読あり)	看護・医療の生産性についての研究はほとんどなされていないが、ここでは看護の生産性について1看護単位の看護ケアシステムの質的・量的な生産性を捉えるための概念枠組みを提示した。
A Systems Approach to Human Factors Engineering Today	共著	平成6年	危機管理研究, 第2号, 10-25, 1994. (査読あり)	A risk free health care setting is impossible in such a complicated situation. Human makes errors is reality. So what has to be found is a system that allows the control and reduction of human errors, which we present in this paper. 担当部分: 医療場面での事故の背景にある要因について分析し、解決策を提案 共著者: リ・ルイザ、加納川栄子、園部経夫、師岡孝次
他医療職への看護業務委譲方法の経済的評価と委譲に伴う問題点-平均給与額と診療報酬によるシミュレーションより-	単著	平成8年	東海大学短期大学紀要, 第29号, 13-22, 1995. (査読あり)	著者が考えた業務委譲方法の経済的な評価を、①各医療従事者の平均給与額、②現行の診療報酬制度の2側面から評価を行った。併せて看護業務の他医療従事者への委譲を阻んでいる問題点についても検討を加え、望ましい看護サービスのあり方とチーム医療体制について提案した。
患者満足度指標が看護サービス向上に果たす役割	単著	平成9年	医療C S, Vol.1 No.1, 105-110, 1997.	患者満足度の概念の構造、どのようなメカニズムで成り立っているのかを種々の研究成果より明らかにし、看護ケアに対する満足度に関連していると思われる要因を明らかにした。
「織りなす心の看護」におけるキャリアディベロップメントの特徴	共著	平成11年	高知女子大学紀要看護学部編 第48号, 45-57(査読あり)	看護婦として成長し自己実現を目指していくプロセスを「織りなす心の看護」の側面から捉えた。看護婦は芽生え期、摸索期、結実期と発達しながら、自分の仕事の中にキャリア・アンカーを見出し、看護婦としての自尊感情を養いつつ、自己実現を遂げているというキャリアディベロップメントの特徴が明らかになった。担当箇所: 研究計画、実施、分析 協同研究者: 加納川栄子 中野綾美 宮田留理 畦地博子 梶本市子 中西純子 梶原和歌 宮井千恵 野嶋佐由美
「こころのケア」に関する看護婦の認識	共著	平成11年	高知女子大学紀要看護学部編、第48号, p.59-69 (査読あり)	こころのケアに関する重要性と実践に関する認識、こころのケアの特性に関する認識、実践を阻害する要因について調査した。担当箇所: 研究計画、実施、分析 協同研究者: 梶本市子, 畦地博子, 梶原和歌, 中野綾美, 宮田留理, 中西純子, 加納川栄子, 宮井千恵, 野嶋佐由美
エンパワーメントに関する患者と看護者の認識の特徴	共著	平成11年	高知女子大学紀要看護学部編、第48号, 79-88 (査読あり)	看護援助を通じて生じる患者のエンパワーメントについて、患者および看護者がどのように捉えているのか、その指標の特徴を明らかにした。担当箇所: 研究計画、実施、分析 協同研究者: 中野綾美, 中西純子, 山口利子, 長戸和子, 畦地博子, 梶本市子, 加納川栄子, 宮田留理, 梶原和歌, 宮井千恵, 野嶋佐由美
災害時の看護の役割の明確化-水害を通じた災害時の看護の役割の検討	共著	平成12年	日本災害看護学会誌, Vol. 2, No. 3, 9-29, 2000. (査読あり)	地域の災害時の看護支援ネットワーク形成の土台を築く目的で地域の看護職よりなる検討会を発足させ、災害時の看護の役割を、既存の文献、地域の看護者へのアンケート、災害エキスパートからの意見聴取により分析し、災害時の看護の役割を抽出した。担当箇所: 研究リーダー 共同研究者: 山田寛 加納川栄子、高知県災害時看護支援ネットワーク検討会メンバー16名

<p>〔自己管理に問題がある慢性疾患患者の意欲に働きかけるこころのケア指針〕の開発と実用性に関する研究</p>	<p>共著</p>	<p>平成14年</p>	<p>高知女子大学紀要、Vol. 51, 39-51, 2002. (査読あり)</p>	<p>自己管理に問題のある慢性疾患患者の闘病への意欲に働きかける看護のケア指針を開発し、臨床看護者に一定期間実際に用いてもらいその実用性と有用性、改善点等を探る目的でフォーカスグループを用いて検討した。担当箇所：ケア指針の作成、フォーカスグループによる評価 共同研究者：長戸和子、<u>加納川栄子</u>、梶本市子、鈴木志津枝、中野綾美、その他7名</p>
<p>A県における災害看護への取り組みに関する研究</p>	<p>共著</p>	<p>平成12年</p>	<p>日本災害看護学会誌, Vol. 4, No. 3, 22-32-, 2002. (査読あり)</p>	<p>A県内の全ての病院の看護者に対して、災害に対する取り組み状況調査を行った。その結果、看護者の災害看護に対する取り組みの問題点が明らかになり、今後の課題が明らかになった。担当箇所：調査の実施、分析、共同研究者：森下安子、東郷淳子、<u>加納川栄子</u>、その他</p>
<p>中山間における高齢者のヘルスプロモーション</p>	<p>共著</p>	<p>平成15年</p>	<p>高知女子大学紀要看護学部編, Vol. 52, 39-46, 2003 (査読あり)</p>	<p>中山間に生活する高齢者の生活実態を、個別訪問による聞き取り調査により明らかにした。その中で、中山間独自のヘルスプロモーションに関わる要因を抽出した。担当箇所：調査の実施、分析、共同研究者：時長美希、松本女里、<u>加納川栄子</u>、山田寛、長戸和子、他4名</p>
<p>看護管理者はなぜ忙しいのか、なぜ仕事が減らないのか</p>	<p>単著</p>	<p>平成23年</p>	<p>ナーシングビジネス Volume 5, Issue 1, 8-12 (2011)</p>	<p>忙しさの呪文から抜け出すために、看護管理者自身が基本的に認識しておくべきことを述べた。</p>
<p>臨床看護師を対象としたフィジカルアセスメント教育方法の検討</p>	<p>共著</p>	<p>平成25年</p>	<p>三重県立看護大学紀要, 第17巻, p. 17-26, 2013. (査読あり)</p>	<p>臨床看護師のフィジカルアセスメント能力の向上のために、実際に三重県と静岡県の大学で遠隔授業を試み、用いたフィジカルアセスメント技法の可能性と課題を検討した。担当部分：企画、実施評価 共同研究者：岡本恵里、白石葉子、佐藤智子、<u>小寺栄子</u>、鈴木聡美</p>
<p>(その他)</p>				
<p>看護ケアシステムの改善による看護業務の生産性の向上</p>	<p>単著</p>	<p>平成6年</p>	<p>平成5年～6年度科学研究費補助金基盤研究(C) 研究報告書, 1994</p>	<p>看護職が抱えている問題の根本原因を追究し、その問題の解決あるいは看護ケアシステムの改善のためには何を目標せばよいのか明らかにした。</p>
<p>医療業務分担に関する人的対応と経済性に関する研究－病棟業務の適正化に関する現状調査と対応策</p>	<p>単著</p>	<p>平成14年</p>	<p>平成11年度～13年度科学研究費補助金基盤研究(C) 研究報告書, 2002.</p>	<p>チーム医療における職種間の連携を妨げている要因は、患者中心のケアに対する認識の欠如、他職種の専門性に対する認識と理解の低さ、相互の関わりを持つ業務システムの欠如、等が明らかになり、チーム医療を推進する上での今後の課題が明らかになった。</p>
<p>災害多発県における災害時看護指針の作成と看護支援ネットワークに関する研究</p>	<p>共著</p>	<p>平成14年</p>	<p>平成12年～平成14年文部科学省科学研究費基盤研究(B) 研究報告書, 2002.</p>	<p>災害時の具体的な看護の役割は動的であり、時間の流れの中で情報を得たり、資源を活用しながらその役割が発揮されていると考えた。それによりシステム思考を導入し、役割と役割の関係を動的に捉えようと、IDEF法(ワークフロー分析法)を用いて災害時の看護の役割の洗練化を試みた。</p>
<p>変革期に於ける中年期看護者のキャリア開発に於ける研究</p>	<p>共著</p>	<p>平成19年</p>	<p>平成16年度～18年度科学研究費補助金基盤研究(C) 研究報告書, 2007.</p>	<p>中年期の看護者の成長に影響を及ぼした経験として、患者や家族から得られた学び、職場の役割の変更、職場内の人間関係に関するもの、看護師個人の経験などが見られ、いずれも看護者が、体験をどの様に受け止め、学びにしていけるかは個人の解釈により異なっていた。</p>
<p>変革期の看護部門トップマネージャーに求められる役割とコンピテンシー</p>	<p>単著</p>	<p>平成23年</p>	<p>平成20年度～22年度科学研究費補助金基盤研究(C) 研究報告書, 2011.</p>	<p>看護トップマネージャーへのインタビュー並びに病院管理者へのアンケート調査により、看護のトップマネージャーの役割と高業績特性として11のカテゴリー53の能力を抽出した。更に内外の文献資料を参考にしディクショナリーの内容に検討を加えて、5つのコンピテンシー領域、28の分野、217のコンピテンシー項目よりなる看護のトップマネージャーのコンピテンシーディクショナリーを作成した。</p>
<p>(翻訳)</p>				
<p>テューク大学病院看護部編看護ケア評価マニュアル</p>	<p>共訳</p>	<p>平成元年</p>	<p>学習研究社, 1989.</p>	<p>担当：P. 18-574, 監訳：正津晃、前田マコ、岡本妙子、<u>加納川栄子</u></p>
<p>看護診断診断分類の理論的背景と診断</p>	<p>共訳</p>	<p>平成3年</p>	<p>医学書院, 1991.</p>	<p>担当：P. 320-395, 共訳者：稲岡光子、内布敦子、太田喜久子、<u>加納川栄子</u>, 他10名</p>
<p>プライマリー・ナーシングの導入と実践</p>	<p>共訳</p>	<p>平成3年</p>	<p>医学書院, 1991.</p>	<p>担当：P. 1-37, 85-129, 共訳者：<u>加納川栄子</u> 満田香</p>
<p>(シンポジウムの企画・モデレータ)</p>				
<p>次世代をつなぐ看護管理のリーダーシップ ーリーダーシップ育成の実際から課題を考えるーリーダーシップ</p>		<p>令和元年</p>	<p>日本看護管理学会例会、大宮市</p>	<p>医療を取り巻く環境が大きく変化中、現状への対応に終始するだけでなく、様々な状況変化に果敢に対応するリーダーシップを次の世代に向けて組織として育てていく必要があり、次世代に向けたリーダーシップ育成の必要性と課題を現場の実践事例から討議した。</p>